

小さくても自立していく。 勇気を持った起業家たちとともに、 日本の未来を創っていききたい。

齋藤裕美

(株)SOHO 代表取締役社長

古い由緒あるホテルを 75 室の電子のコテージにして
新ビジネスを孵化(ふか)させる。

旧シルクホテルは、横浜開港 100 周年事業の一環として、1959 年に建てられた由緒あるホテルです。15 年間眠っていたこのホテルを活用できないか？ そういう相談を受けたのが 97 年です。当時、関内・山下地域は、みなとみらいができたことで空室率が 17% と空洞化していました。

そのころ私は、(株)空間創造研究所で建築設計や街づくりの企画など忙しい日々を送っていて、初めはこの場所を、別会社を創ってまで自分自身が運営しようという気はまったくなかったんです。ところが建物の中に足を踏み入れた途端、なんだかとても懐かしい感じがしました。以前、世界的に有名な建築家、ル・コルビジェが設計した世界初の集合住宅「ユニテ・ダビシオン」(フランス・マルセイユ)を見たことがあるのですが、シルクホテルは彼のお弟子さんだった板倉準三先生が設計したものだそうです。デザインというのは、DNA のように受け継がれていくものです。それまで忙しさの中で忘れていた純粋な気持ちが、このホテルを見たとき、心の中に甦りました。過去の記憶と未来が融合したような感覚でした。

コルビジェは、「輝ける都市」というコンセプトを掲げてユニテ・ダビシオンをつくり、戦争で愛する人を失った人たちに、家族のように一つ屋根の下で一緒に暮らそうと呼びかけました。私がそういう創り手の「念い」(おもい)を忘れかけて日々を過ごしていたときに、この場所との出会いがあり、ここを次世代ベンチャー企業の船出の場所にできないかと思いつきました。

大きな資本や組織にお金が集まる時代は崩壊しました。これからは、小さな個人の力を集積した集合体に目を向けていくことにより、世の中の大きな仕組みを変えていくことができるのではないかと。小さいながらも自分の力で立つ、という基本的なやり方に戻ることが重要だと思ったんです。賃料が安く、情報インフラが整った 75 室の「電子のコテージ」。私自身、建築事務所の通信インフラに悩んでいたときでした。同じような悩みを持つ人たちとこの場所を共同利用すれば、通信インフラも安くなるし、打ち合わせスペースも共有できる、そう思ったわけです。

資本金は 1 千万。これでどこまでやれるか、やってやろうじゃないか、そういう気概もあって見切り発車しました。小さくても自立していく勇気を持った経営者を、支援というおこがましい気持ちではなくて、一緒にがんばろうという気持ちで、「SOHO 横浜インキュベーションセンター」と名付けたのです。

マスコミの宣伝もあって、まだこちらの体制が整っていないときから問い合わせが殺到しました。私たちはあおられる形で立ち上げて法人化をはかった次第です。視察も多く、国内の自

治体をはじめ、海外のあらゆる場所から3万人近くの方が来られました。

成功体験があり、新しいものを受容する横浜だからこそ、
正統派の経営者が誕生する。

現在の入居企業の構成は、IT関連やウェブコンテンツ・デザイナーを中心に、建築設計や特許事務所などさまざまです。02年10月にここへ入居してきた2人の若者は、大手の証券会社から独立し、美容院にシャンプーやリンスを卸す仕事を始めました。毎日、颯爽(さっそう)と自転車で営業に出ていき、2カ月かけて700もの美容院を回ったそうです。もう自転車で回れる所は全部行ったので、次からは車に替えると言っていますが.....(笑)。彼らのように基本的なところを大事にする起業家が、正統派の経営者と言えるのではないのでしょうか。

横浜は、かつて起業家の原点となった港町です。日本はシルクの多くを山下町の棧橋から輸出して外貨を獲得し、それで銀行、証券、新聞社、鉄道、ガス、通信といった事業を起こしました。過去の成功体験があり、新しいものを受け入れるDNAを持っている。そういう意味でも横浜は、正統派の起業家が集まってくるのにふさわしい場所だと思います。

(株)SOHOは設立以来5年が過ぎ、今は起業家たちの交流支援環境を、どう創っていくかが課題となっています。経営者同士が集積している効果として、お互いに弱い部分を補えることと、相乗効果などがありますが、これまで20代、30代の経営者たちがもっとラフに集まって、自由にのびのびと感性を磨きあえる場所はなかったと思います。もっと個人の感性を發揮できる環境を提供したい。そこで入居者以外の外部会員でも、ホールやミーティングスペースを使える「SOHO CLUB」を立ち上げました。ここではすでに月例会やイベントを開催していますが、会員同士でもセミナーや勉強会を企画したり、ひとつのプロジェクトを共同で行ったりしているようです。

私にとって、ここはまだ点にすぎません。今後は国や地域、業種を超えて、SOHO、中小企業、既存産業を巻き込んで、新しいビジネスモデルを形にしてみたいと思っています。それも、我々民間が牽引し、行政がバックアップするというスタイルで。そこには信念を持って質を追求し、時間をかけて事業を熟成させていく正統派の経営者が集まってきてほしいと願っています。

[プロフィール]

齋藤裕美(さいとう ひろみ)

1957年、東京生まれ。ニューヨーク州立大学FITで流通工学を学び、84年にVENDOM.NYに入社。帰国後、85年に(株)IBA研究所設立、経営コンサルティング、翻訳業務を手掛ける。86年に長銀経営研究所に入社。88年(株)空間創造研究所を設立、都市建築設計を手掛け、98年に(株)SOHOを設立。著書に『創業支援革命』がある。

(株)SOHO

会社設立は1998年。SOHOは「Super Office Human Office」の略。同年、旧シルクホテルを高度情報化した「SOHO YOKOHAMA INCUBATION CENTER」を開業し、01年には、横浜市より「情報化ビル」第1号施設に認定される。同センターには現在、若干の空室あり。

〒231-0023 横浜市中区山下町1 シルクセンター6F

TEL: 045-224-8080

<http://www.soho-inc.co.jp/>

saito@soho-inc.co.jp